

行田市消防署所再編計画（案）に対する市民意見と対応一覧

	意見の内容	対 応	修正
1	消防署の再編について反対いたします。 高齢化が進み、体調を崩して救急車のお世話になる人も多くなるでしょう。 今でも救急車のサイレンが聞こえない日はありません。 また、新型コロナウイルスについても一向になくなる気配もない今、なぜ消防署を減らさなくてはならないのでしょうか。 手厚く充実させることこそあれ、減らすことには疑義を持たざるを得ません。	ご意見にあるように高齢化の進展などによる救急需要の増加をはじめ、複雑多岐にわたる災害に対応するため検討した計画であり、消防署所を集約し、現有の車両、人員、施設等を今まで以上に有効活用することで、効果的に消防体制の充実強化が図れるものと考えております。	なし
2	目的や効果（メリット）が抽象的な言葉だけの為、イメージが想像出来ない。しっかりとしたデータを基に出して頂かないと、市民には伝わらない。 以上。変革する事には賛成ですが、もう少し具体性と意志を入れて頂きたい。	平成26年度に一般財団法人消防科学総合センターに調査委託した「消防力適正配置の検討」及び平成26年度の南分署耐震補強工事により、南分署を一時閉鎖した期間の実績並びに平成29年から令和2年までの過去4年間における救急出動実績など、詳細なデータに基づき、計画（案）を策定しております。	なし
3	南分署廃合により、人員が12名から統合後も12名。なぜ低減しないのか？一般的な考えから見ても、統合への人間的なメリットはあるはず。	本計画は、署所を再編し、現有の車両、人員等を集約、有効活用することで、出動体制の充実強化を図ることを目的としており、事業の縮小などを目的とした署所の再編ではありませんので、人員の低減は考えておりません。 従いまして、実質的には人員増と考えております。	なし
4	スケジュールの日程が長過ぎるのではないかと？安全担保の為、移行期間は必須だが、なぜ10月まで開始時期が遅れるのか？一般的に見てもスピード感が感じられない。 本当に効果（メリット）があるならば、本当に実現したいならば、スケジュールを見直すべきと感じます。	スケジュールにつきましては、南分署の整理統合に関する広報活動はもちろんです。消防署は24時間勤務であることから、配置換えする職員を受け入れる本署の施設の整備など、準備に一定の期間を要するため、試行的運用期間の開始時期を10月にしたものです。	なし
5	反対します。 今回のコロナ禍でもわかったように、保健所の再編による保健所の逼迫を目の当たりにして、さらに、消防署まで同じような理由で少なくすることがよいとは思えません。	人口は減少していますが、高齢化などの影響により救急需要は増加の傾向にあります。皆さまからの消防需要に対応するため、現在の消防力を最大限に活用すべく組織を見直すことで、消防体制の充実強化を図りながら、持続可能な消防を維持できると考えております。	なし

	意見の内容	対 応	修正
6	<p>消防署所改編への意見が欲しいと言う事ですが、消防 = 火事 という認識があり、現在の救急車、これは医療、病院業務！と考えると、母団体が異なる様な気がします。 10年前の大震災、その後、危惧される地震、洪水、それに伴う災害 等を鑑みると</p> <p>消防（火災の阻止）は火への特化、救急等、レスキューを伴う業務はレスキュー隊！病人搬送はそれに含めるか?! 等 業務上の変革が必要なのでは</p> <p>ないのかな、などと考えましたが如何なものでしょう。</p> <p>そこには多分な検討の余地が有りましょうが、、、</p>	<p>ご意見の趣旨については、「現在の消防行政を改革する」内容であると考えます。</p> <p>近年、救急需要の増加や多様化、大規模化する災害に対応するためには、消防、救助、救急の連携は必要不可欠であると考えておりますので、現在の消防行政の改革までは検討しておりません。</p>	なし
7	<p>南分署なくなる事、まず反対です。以前主人が家で頭をケガした時、南分署から来てくださり、命に別状はなかったの、すごく感謝しています。万が一の時、まにあわなかった時(息がとまってしまった時など)一刻も早く来てほしいと思います。</p> <p>本署から埼玉（さきたま）まではなれているし、何か不安になってしまいます。</p> <p>南分署 なくしてほしくないです。</p> <p>もう1度、考え直してください</p>	<p>増加する救急需要や複雑多岐にわたる災害に対応するためには、現有の消防力を最大限に活用する必要があり、消防署所を整理統合し、消防車両・人員を効果的に運用することで、消防体制の充実と重複事案への強化が図られ、持続可能な消防を維持できると考えております。</p>	なし
8	<p>分署及び人員の整理統合、適正配置により消防力を維持するための再編計画と言われるが、消防車両の削減(水槽付、ポンプ車各1台)を伴うのなぜなのだろうか？</p> <p>(案)にある消防車両の削減に関しては、近年の大規模災害等の発生を見ると、減らしてよいものか？と疑問を感じてしまうところである。8万の市民を、消防団を除けば、約10台の消防車両で守っていることになるが、そのうち2台を更新せず(予備車的な運用はすると思われるが)となると、消防力の低下は大きいものであると考える。市内のみで多発的に災害が起きた場合には、近</p>	<p>「消防力の整備指針」に基づき、地域人口、地勢、道路事情、建築物の構造等の特性を勘案し、消防署及び消防団の署所や消防車等を配備しています。</p> <p>火災に出動する全ての消防ポンプ車が、放水を行うわけではなく、1台の車両から複数の放水ができるようになっておりますので、後着した消防ポンプ車の隊員が、先着している消防ポンプ車からホースを伸ばし放水を行っています。</p> <p>また、消防車両を含む高機能な資機材の配備による消防力の向上や幹線道路網の整備が進んだ現在は、現場到着時間が短縮されていることもあり、消防力を集約することが、消防力の充実強化</p>	なし

	意見の内容	対 応	修正
	隣消防の応援をお願いすることもできるが、広域災害の場合は、自分の市町村のみで手一杯で、それも叶わなくなる。予算の問題もあると思うが、消防職員数を減ずるのでないのなら、消防車両の維持・確保も継続して行っていただきたい。	につながると考えております。 このことから、ご指摘の消防車の減少による消防力の低下はないものと考えております。	
9	分署の集約に関しては、道路環境の改善により現場到着までの遅延時間は相応に短くなったと思われるし、建物等の維持経費も経年により高くなっていくと思われるため賛成である、が一番は職員の労働環境として施設設備の老朽化は傍からみても年季が感じられ、早急に改善をしてあげて欲しいところであったため、その分の経費を本署の改善・改修に役立てられれば職員の皆さんが働きやすい環境が整備でき良いと思われる。	今後も職員の労働環境を改善するため、「行田市公共施設マネジメント計画」に基づき、施設ごとに策定した「個別施設計画」により、消防庁舎等の適切な維持管理に努めてまいります。	なし
10	少子高齢化や人口減のため、広域化により維持するのも今後は必然となるであろうことから、指令業務を共同で行っている熊谷市やごみ処理で協力する羽生市との連携は、早くから検討していただきたいと思う。	大規模災害等への対応や今後の災害リスクの高まり、さらに人口減少を踏まえ、全国的に消防の広域化が推進されており、当消防本部においても、県の主催する勉強会等へ参加し、消防広域化の調査研究を行っています。 消防広域化につきましては、皆様への消防サービスが低下しないよう、引き続き、慎重に検討を行ってまいります。	なし